

調査日時：令和3年5月27日（木） 調査対象：第3学年生徒

◆学力調査◆ ※下線を引いている設問については、裏面に具体的な改善策を示しております。

	国語	数学
相当数の生徒ができています設問	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの話題や方向を捉える 質問の意図を捉える 文脈に即して漢字を正しく読む 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられたデータから中央値を求めることができる 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる
課題のみられた設問	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える <u>書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の<u>関係に注意して書く</u></u> 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える <u>文章に表れているものの見方考え方を捉え、自分の考えをもつ</u> 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することができる <u>ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見出し、それを数学的に表現することができる</u>
育みたい資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> 話す・聞く能力 書く能力 読む能力 言語についての知識・理解・技能 	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な見方や考え方 数学的な技能 数量や図形などについての知識・理解



◆質問紙調査◆

肯定的な回答が高い割合を示した質問	<ul style="list-style-type: none"> ○朝食を毎日食べている ○毎日、同じぐらいの時刻に起きている ○人が困っているときは進んで助けている ○いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う ○人の役に立つ人間になりたいと思う ○友達と協力するのは楽しい ○学習の中でPCなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思う ○友達と話し合うとき、友達の話や意見最後まで聞くことができる ○道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる ○国語の勉強は大切だ ○国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たとき役に立つと思う ○数学の勉強は大切だ
肯定的な回答が低い割合を示した質問	<ul style="list-style-type: none"> ○普段(平日)、1日当たりどれぐらいの時間、テレビゲーム(PC、スマホのゲーム等)をしますか →2時間以上4時間未満 ○土日など学校が休みの日に、1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしていますか →1時間以上、2時間より少ない ○普段、1日当たりどれぐらいの時間、読書をしていますか →10分より少ない、または、全くしない ○新聞を読んでいますか →ほとんど、または、全く読まない ○今住んでいる地域の行事に参加している →ほとんど参加していない ○普段、1日当たりどれぐらいの時間、スマホやPC等のICT機器を勉強のために使っていますか →30分以上、1時間より少ない

◆今後の取組◆ 神中生の確かな学力育成プラン

<p>学びを深める授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを効果的に活用して、生徒一人一人の特性・学習進度・学習到達度等に応じ、重点的な指導や指導方法・教材等の工夫を行うとともに、個やグループ、学級 全体などの学習形態を工夫して多様な協働学習の場を充実させる。 ○各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる単元構成を工夫するとともに、学んだことを関連付け、体系化していく学習過程を工夫する。 ○授業改善推進チーム（数学・情報）を活用し、授業力の向上とともに学力向上を図る。 ○チャレンジテストの取組による学習マネジメントサイクルの推進をする。
<p>落ち着いた学級づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小中9年間を通した学習規律を徹底する。 ○年2回のほっとを位置付け、学級の人間関係の理解に取り組むとともに、豊かな個性が受容できる心理的安全性の保障を大切に学級経営をめざす。 ○生徒自らが考え、互いに意見を述べ合う学び合いや助け合いの機会を積極的に設け、生徒主体の取組を一層工夫しながら、自己効力感や自己肯定感を高める。
<p>望ましい学習習慣づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の手引きを配布し、家庭学習の目的や取組の見通しをもたせる。 ○テレビ、インターネットなど、メディアとの関わりについて自分の生活を振り返らせる。 ○テスト計画表の取組を通して、限られた時間の効果的な使い方を学ぶ体験を積み重ねる。 ○家庭学習におけるeライブラリの活用を推進を図る。

